

図書館だより

2023年度 第9号

1月の図書館

県内高校司書のおすすめ本

古雑誌の譲渡会

新年明けましておめでとうございます。今年も渦高図書館をよろしく願います。

1月の展示は「県内高校司書のおすすめ本」です。高校の司書さんたちに、高校生におすすめしたい本を教えてくださいました。司書さんたちのコメントもあわせて展示していますので、本を選ぶ参考にしてみてください。

1月下旬には古雑誌の譲渡会を計画しています。詳細は後日教室に掲示しますのでふるってご参加ください。



1月生まれの人物

杉原千畝

(1900.1.1-1986.7.31)

外交官。1940年、赴任地のリトアニアにナチのユダヤ人狩りから命からがら逃れてきた人びとに、日本を通過してさらに遠く逃げのびるためのビザを発行した。この行為は外務省からの指示に背いたものだったが、多くのユダヤ人の命を救った。

コルベ神父

(1894.1.8-1941.8.14)

キリスト教の神父、聖人。絶滅収容所と呼ばれた「アウシュビッツ強制収容所」で、餓死刑に処せられる人の身代わりとなって亡くなる。牢に入れられてからの14日間祈りを捧げ続け、仲間の囚人たちの心を支えた。1930年からの6年間は長崎にて布教を行っていた、日本にもゆかりのある人物。

ふたりについて書かれた本

「杉原千畝とコルベ神父 —生命をみつめる—

早乙女 勝元

渦高図書館にあります。ふたりのことが詳しく書かれています。読んでみてください。

みんなのおすすめから

図書館にある「みんなのおすすめボード」。おすすめを書いたふせんは増えてきています。

ふせんを貼ろうとして同じ本が書いてあるふせんを見つけ、「同じ本を好きな人がいるんだ」と気付いたり、ボードから次に読む本を選んだり、ボードをとおした交流も広がっています。



イラストを添えたりして楽しんで書いてくれています。ぜひ見に来て、あなたのおすすめも書いて、貼って、みんなに教えてください。

おすすめからピックアップした本を紹介합니다。

「光のところにいてね」

一穂 ミチ

「いなくなれ、群青」

河野 裕

「オルタネート」

加藤 シゲアキ

「かがみの孤城」

辻村 深月

「あと少し、もう少し」

瀬尾 まい子

「マスカレード・ホテル」

東野 圭吾

「名探偵コナン から紅の恋歌」

青山 剛昌/原作
水稀 しま/著

「心の傷を癒やすということ」

安 克昌

「花図鑑」

モンソーフルール/監修

「杉原千畝とコルベ神父」を読んで「使命」ということを考えました。「使命」の本来の意味は「与えられた命令」ですが、ふたりの生きざまに「命を賭して行う行為＝使命」と感じました。

自分の使命は何だろうか、命をかけるなら誰かを傷つけるのではなく、ふたりのように誰かを救う行為を行いたい。

戦争・災害のなくならない日々思ったことでした。